

挑む!

森の案内人・庭師

三浦 豊さん(39)

木も人もいろいろ 発見伝える

「ほら、見て」。アスファルトの段差のすきまから、やわらかい緑の葉っぱがちよこんと見えた。「榎の子どもですよ。100年もすれば貫禄が出るよな」。かがんで話しかける。

京都府城陽市を拠点に、各地で樹木

「見える」

観察のガイドをして7年。自然が減ったといわれるけれど、街には木が意外にたくさん生えている。大きな葉っぱの桐も、南方の棕櫚も。「こんなところに木があると気づけば、街が違って



京都・下鴨神社の近くで育つ。会員制サイト「forest forest」で森歩きの思いなどを発信。著書に「木のみかた」（ミシマ社）。

大学で建築を学び、心地いい空間とは何かを考えた。「風通しのいい庭」。それが答えだった。卒業後、京都の庭園で勉強しながら庭師になった。良い庭は手入れを尽くしているのに、手入れされていないようにも見える。じゃあ、自然とは何？ 答えを探しに2004年から5年間、四駆車で全国の森を巡った。計3千カ所になる。

きれいな白い花を咲かせるのに、臭木なんて名の不遇なヤツもいれば、榎は枝ぶりがよくて木漏れ日が細かく昼寝にもってこいだ。「木もいろいろ、人もいろいろ。ボクはボクでいいのだ」。森を案内しながら、そんな発見を伝えている。

自宅は広い庭のある借家。360種の草木が茂る。「数十年後、この庭はどんな森になるか。時間旅行ですね」

文・河合真美江 写真・植谷綾二

記者から

どんな木でもパッと名前が出る、ニコニコ森博士。話を聞くと緑の中に飛び出したいくなります。